

メッセージアウトライン ローマ 3 : 21~26 「キリストの贖い」

[21-22] 「しかし、今は、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。」

「律法と預言者」とは旧約聖書を意味する。それによって立証されるものとして神の義が示された。

「神の義」とはこの場合、神が人間を義とする行為であると考えられる。イエス・キリストを信じる信仰によって神の前に義と認められるという道を神は開いてくださった。そしてそれはすべての信じる人に与えられ、何の差別もない。

[23-24] 「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」

人間の始祖アダムとエバが罪を犯して以来、すべての人間が罪の影響のもとにあり、今も罪を犯し続けている。それで神は何の差別もつけずに、イエス・キリストを信じる者はすべて救われるという道を備えてくださった。これはもう神の恵み以外の何物でもない。「恵み」とは、それを受けるに値しない者に対して一方的に与えられる神の過分のお取扱い、恩寵のこと。この恵みは神の御子イエス・キリストによる罪の贖いというかたちで私たちに与えられた。それによってすべての信じる者は価なしに神の前に義と認められるのである。

[25-26] 「神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現すためです。というのは、今まで犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。それは、今の時にご自身の義を現すためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。」

旧約時代は人間の罪のためのなだめの供え物として羊や牛などの動物がささげられた。そしてそれは何度もささげられなければならなかった。しかしそれはいわば本物が来るまでであり、神の御子イエス・キリストこそが、その本物のなだめの供え物であった。→ヘブル10:1~14 神はイエスを十字架につけることによって、そのことを公にお示しになった。そしてこのイエスの十字架の血の贖いを信じる者はその信仰によって救われるのである。神は今まで犯されてきた人間の罪を忍耐をもって見のがして来られたが、ついにご自分の義を現される時が来た。これは神がご自分の正しさに従って罪をさばかれるということであり、罪ある人間はこれに耐えることができない。そこで神の義が示され、しかも人間が義とされる方法として罪のない神のひとり子イエス・キリストが人間の罪の代わりに罰せられる必要があった。イエス・キリストの十字架こそそれであった。キリストの十字架の贖いによって人は救われるのである。